

## 日本包装管理士会選定 「2022 年包装界・10 大ニュース」

### 1. 32 年ぶりの円安、包装資材の値上げ

ウクライナ情勢や日米の金利差が拡大し、円は対ドルで大幅に下落し、一時1ドル＝150 円台を超えるまで円安が進んだ。

円安により、コスト上昇に拍車をかけて商品、サービスの値上げラッシュが続いている。段ボール原紙が異例の年 2 回の値上げのほか、様々な包装資材も値上げとなり、店頭には並ぶ商品値上げの要因となった。

### 2. 海洋ゴミ削減がプラスチック資源循環促進法に反映される。

2022 年 4 月に施行した「プラスチック資源循環促進法」により、国際的課題である海洋プラごみ問題に対し、日本においてもプラスチックの使用量削減の動きが加速した。また環境に配慮した商品設計や使用材料の見直しが進み、企業間でのリサイクル技術開発を協働で行う動きも見られた。

### 3. DX 化の動きが活発化・デジタル印刷用途拡大

包装を含めた各企業の経営・IT 部門、物流業界等では、DX(デジタルトランスフォーメーション:デジタル革新)化が活発化、また経済産業省においても、2025 年の崖を克服すべく、DX 化を推進している。

一方、巣ごもりによる e コマースの発展を背景に、軟包装の小ロット・多品種化製品への需要が拡大。特にデジタル印刷は、大量需要につながる食品や日用品向けに対応可能なため、期待が集まっている。これまでは殺菌工程が必要な包材に使用制限があったが、デジタル印刷を活用したレトルト殺菌対応パウチが開発され、加熱殺菌が必要な商品に使用可能となり、包装向け用途が拡大されることになった。

### 4. プラ包装全廃の動き

国内で初めて電機製造業大手の S 社が商品の包装材でプラスチックを全廃する。

まず 2023 年度にスマートフォン、オーディオ、カメラなどの小型新商品で始め、外部調達する紙箱に加え竹やサトウキビの繊維などで自社開発した新素材に順次切り替える。将来的にはテレビなど大型商品も含めてプラ使用を取りやめる。国内では脱プラは非製造業を中心に進んできたが製造業にも広がる。環境への姿勢が企業に一段と求められており、代替素材を巡る連携や競争が活発になりそうだ。脱プラスチックの動きは世界的に加速しており、米・A 社は 25 年度までにプラ包装材を全廃する方針、スウェーデン・I 社は 28 年までに包装へのプラ使用を取りやめる。

### 5. 再生プラスチックの需要増加

再生プラスチック利用を評価する消費者が増加しているなかで、2022 年は再生プラスチックの需要が急速に伸びた。飲料用 PET ボトルは、水平リサイクルの仕組みが構築され、需要増加に伴って使用済みペットボトルの取引価格が高騰し、新品の樹脂価格を上回るケースが発生。また化粧品、日用品などの容器にも再生樹脂の採用が進み需要が拡大した。大手コンビニではペットボトルのリサイクル状況を消費者が追跡できるサービス実験なども行われた。

## 6. 製品包装のバイオマス認定化、および包装への表示が進む

環境問題への対応を推進する各企業において、自社製品包装のバイオマス度を表示する「バイオスマーク」の取得、およびそれらの表示が進んでいる。サステナブルに積極的に取り組んでいることを示す有力な方策、および指標の一つとして、「バイオスマーク」が日本企業から重要視されている証拠である。

また、当マークの採用増加は、問題意識の高い消費者に対する自社製品のアピールとともに、特に世界的な投資ファンドや海外の株主から、環境に対する企業としての取り組みに関し、積極的な情報開示が要望されていることなども、理由の1つとして挙げられている。

## 7. 長方形型マイクロ QR コード(rMQR コード)が ISO 規格を取得

開発された rMQR コードは、従来の QR コードでは対応できなかった細長く狭いスペースへの印字に寄与するほか、マイクロ QR コードより多くのデータ容量を保持したいというニーズに対応。また、従来の QR コード同様の構成パターンを配置することで高速読み込みを実現する。

この rMQR コードは国際規格(ISO)を取得しており、誰もが自由に安心して使うことができる技術として、電子部品などの限られたスペースへの印字や配置するスペースのデザイン性を損なわない使用といった幅広い分野に貢献する。

## 8. 「めっちゃかわいい」「おしゃれ」な飲料水入りガラス瓶が SNS で注目を集める

一部エリアの大手スーパーで販売したスポーツドリンクが、「清涼感あふれすぎる瓶」とネット上で大きな話題を集めた。このドリンクは、リユース可能なガラス製リターナブル瓶入りでロゴは直接印刷、ラベルレス、キャップは栓抜きで開ける王冠を採用。消費者は使用済み瓶を店頭の専用返却ボックスに戻す循環システムでボトル洗浄、充填、再販売が行われる。このガラス瓶を求め他県に出向いて購入する人が続出し SNS でつぶやく姿が報告された。

## 9. 再生原料不足から包装資材の価格高騰

使用済みペットボトルの取引価格が高騰し過去最高を更新した。新型コロナウイルス禍の影響で落ち込んだ需要の回復に原油高が重なったため、飲料メーカー各社はリサイクルボトルの原料確保の苦労に加えて、調達費用の上昇を強いられている。

また、デジタル化などを背景に新聞や雑誌の販売が落ち、古紙の在庫が1~2割弱減って需給逼迫が意識され、2年9か月ぶりの高値をつけた。一方、古紙を主原料とする白板紙の需要は菓子などの土産物や贈答向けが堅調に推移しており、原料不足から生産に影響する可能性が出てきた。

## 10. TOKYO PACK 2022 盛況裡に閉幕

TOKYO PACK 2022 が「新時代パッケージ ここに集う！ 未来のために機能進化と使命」をメインテーマに2022(令和4)年10月12日(水)~14日(金)の3日間、東京ビッグサイト東1~3・東6ホールにて開催された。展示企画では「包装の機能進化と環境問題に対する課題」、「食品ロス、食品廃棄に取り組む包装・物流の使命」、「新時代を見据えた先端技術の活用」、「コロナと共存するためのパッケージ」をテーマに紹介され、ユーザー業界と包装業界が直面する喫緊の課題への具体的なソリューション提案が行われた。また、「プラスチック資源循環促進法」が2022年4月から施行されたこともあり、サステナブルやリサイクルに関する展示が多く見られた。